

千葉県 沿岸重要水産資源 令和6年度資源評価

コウイカ（東京湾）



- 千葉県沿岸では、主に東京湾内湾南部～内房北部で小型機船底びき網により漁獲される。
- 東京湾における産卵期は春季で、アマモ類や海藻類などに産卵する。
- 寿命は約1年で、産卵後に死亡するため、夏季にはほとんど漁獲がみられなくなる。

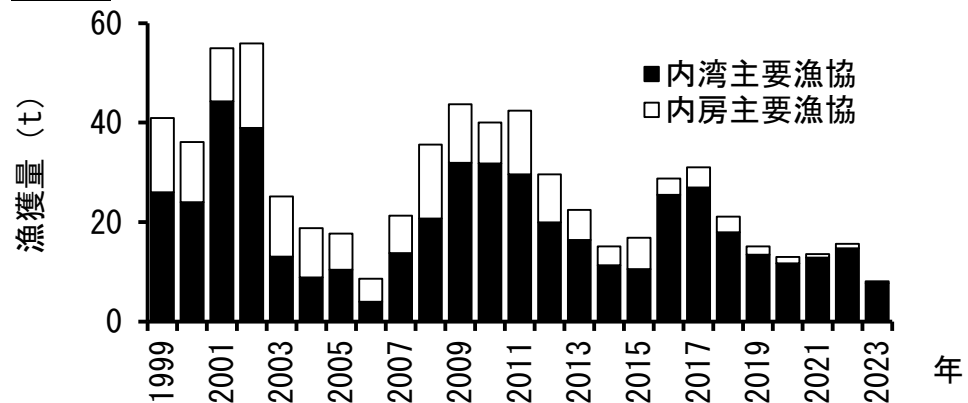
資源評価

水準：低位



動向：横ばい

漁獲量



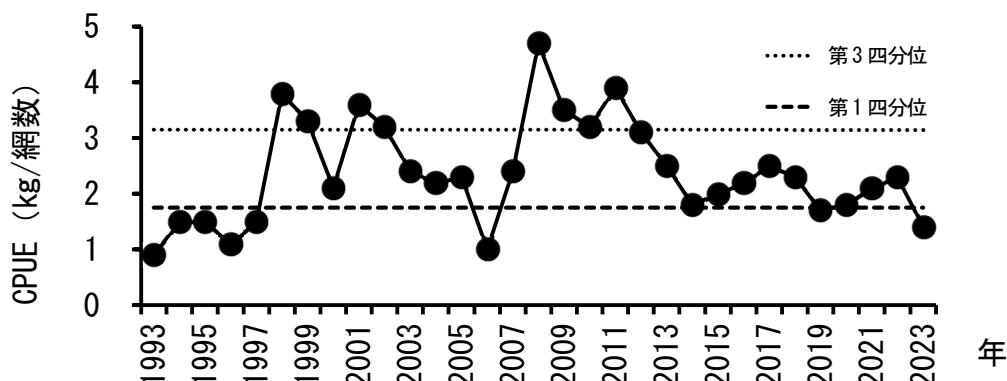
東京湾の主要漁協におけるコウイカ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

東京湾の主要漁協におけるコウイカ漁獲量は、1999年以降増減を繰り返し、近年では2017年に31tとなった後、減少傾向にあり、2023年には8tを記録した。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値（CPUE）から四分位数により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- 2023年の資源水準は低位、最近5年間の資源動向は横ばいとなった。



小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの1網当たり漁獲量（CPUE:kg/網数）の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は3～12隻

資源管理の取組

- 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コウイカ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1996年から漁業者による産卵床の設置が行われている。